

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.34 2013年6月20日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。お向かいの塗装店に依頼した、手すりや門などのペンキ塗りが六月上旬から続いています。古い塗料や錆を落とし、錆止め&塗料を重ね塗りする根気の要る仕事。今朝、門を開けた帰りに見たら、チャペル横にある錆の浮いた手すりには、バラや蔓がしっかり巻き付いています。ここを塗る時はどうするのかちょっと心配になり、ふと、朝顔につるべ取られてもらい水、の句を思い出しました。

「地は植物... を、種類にしたがって生じさせた。神はそれを見て良しとされた」(創1:12)
校長 関野祐二

● いやはや賑やかな

単位制の聖契神学校はクラスごとに構成メンバーが異なり、特に新入生の多い基礎科の科目は、どんなキャラの神学生が集まって如何なる雰囲気になるのか、蓋を開けてみないとわからない恐ろしさ(?)があります。さて今年、旧約通論と新約通論(教会史も?)は近年にない賑やかさ。最前列を中高年パワー全開の男女が固め、若者たちも負けじと応戦、後ろから長老が微笑しながら見守る、そんな構図でしょうか。クラス開始前から廊下に響き渡るほど元気にクイズ対策(偽預言者現る)、休み時間は古本屋情報などおしゃべりでストレス発散、授業後は脱兎の如く掃除へ。新約は向かいが霊性クラスなので、黙想の妨げにならないかヒヤヒヤものです。でも、ふと思いました。主イエスを取り巻く十二弟子は、多くが北部ガリラヤの漁師あがりで、お世辞にも静かなインテリ集団ではなかったはず。何もかも捨てて従って来ましたが、つきましては何がいただけるのでしょうか、などと言いつつ、誰が一番偉いか争ったり、主イエスのたとえ話にも、「センセー、よくわかりません!」なんて、大声で言っていたのではないのでしょうか。そんな単純素朴な弟子たちを主は愛され、昇天後の伝道と教会形成を委ねたのでした。だから、神学校クラスのこうした賑やかさに神の国を感じるのです。トンチンカンな質問や半減期五分の暗唱聖句もオッケ。え? ずっこけ十二弟子といっしょにするなって? いえいえ誉めてるのですよ。主イエスをこよなく愛する皆さんの学びと献身に、今後の福音宣教と教会形成がかかっているのですから。

● 奇跡の準優勝!

聖契神学校がホスト校なので開会の校長あいさつをしてください、と学生会に頼まれ参加した、神学校親善ソフトボール大会。わが伴侶&事務員は四年ぶりの参加で引退試合にするといい、愛用キャッチャーミットを修理に出す余念のなさ。こちらはカメラのレンズを磨くのがせめてもの備え(家内のプレーを見るのは初めて)。帰宅後の解釈学授業を気にしつつワイワイ賑やかに車数台で秋ヶ瀬公園に到着し(広大で迷いました)、線引きやベースを借りていざ、ソフトボールグラウンドへ。薄日の差す絶好の日和で、4名の教職員を含む総勢24名の大人子ども(+胎児1名)

で参加したわが聖契チームは、当初の予想を見事に裏切って順調に三試合を危なげなく勝ち進み、なんと決勝に進出したのでした。相手ピッチャーの目にも止まらぬ豪速球に食らいつき（いちばん執念を燃やしたのは誰？）、ボロ負けにはならず準優勝！ 打たせて取る、楽しくプレーする、遊び心を忘れない、声を掛け合う、みんなで参加する（校長も記念打席と不安守備で）、これが勝因ですかね。ここにもまた神の国あり。最終打席で出塁出来なかった悔しさに、引退宣言撤回かと心揺らされる人あり。よせばいいのに肌を出し、日焼けしすぎて一皮むけた人ありでした。

● ああ公衆電話

「原発と私たちの責任」ブックレットを共同執筆した関係で、柄にもなく某神学校の特別講義に招かれ、JEA総会を切り上げて前日よりゲストルームに宿泊。さて明日のチャペル担当確認と原稿を探したら見つかりません。講義資料に気を取られパソコンに保存したままだったのです。すでに夜八時半。不携帯の身では自宅への連絡手段なし。あてのないまま外に出、アブラハムの心境で暗き夜道をさまよいました。かなり歩いて飛び込んだGSで、店番のご婦人に尋ねたら、「何？ 公衆電話？ 携帯を使え！」と一喝され、這々^{（ぼうぼう）}の体で退散。ああ主よ、と真剣に祈ったら、交差点のはるか向こうにチカチカ光が見えるではありませんか。吸い寄せられるように歩いたら、なんとその向かいにコンビニ、そして美しき緑の物体が！ 電話の前でおじぎを繰り返しつつ家内に電話し、原稿をFAX送信してもらったのでした。これ、聖契神学校となんの関係があるって？ 不携帯は主への信頼を養う近道と伝えたかっただけです（誰かに叱られそう）。説教者なら一度は出先で原稿を忘れた経験があるようですから（JEA）、神学生諸君も今から指差し呼称の訓練を。そうそう、「自然科学から考える原発とキリスト教」は、秋のオープンキャンパスで講演しますよ。

● 空き時間の新たなひとコマ

賑やかか新入生と対照的なのが、今年度の卒業を控えた面々。学生ラウンジのカードゲームも、食堂の卓球もパタリと絶え、どことなく重苦しい雰囲気です。代わって見かけるのは、午後の空き時間に教室のそこかしこで展開される自主勉（自主的に数名が集まって行われる勉強会のこと）。パソコンを各自が開いてなにやらギリシャ語へブル語の会話が。原典釈義研究をしている様子。赤ちゃんをおんぶしながらの学生もいます。質問されても困るので早々に退散し、現場に出る前のこうしたかけがえなき時間が祝福されるよう祈りました。向こうを張るわけではないのですが、以前より度々頼まれていた創世記聖書研究会を、ふとしたきっかけから現実化することになり、とある金曜午後、「宣伝が足りない」と叱られつつも数名が集まりました。まさに自主勉で授業とはいっさい関係なしだから気が楽。内容評価は参加者にゆだねますが、みことばを中心に生き生きと、妙に（？）面白かったことは確かでした。ここで学ぶ学生たちの残り時間は限られていますが、やれるところまでやってみます。「今でしょ」というフレーズ、流行っているようですね。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 2013年度前期授業と在校生74名の学び、教職員15名と理事5名の働きが、健康や霊性を含め守られるように。特に、新入生20名と、来春の卒業を控えた兄弟のため。
- ・ 本校の運営が支えられ、諸教会や他神学校との良き交わりと信頼関係に基づき、主にある献身者育成の使命を果たせるように。この時代にあつてのビジョン構築と展望のため。
- ・ 病气療養中の卒業生、休学中の在校生が整えられ、働きや学びへと復帰出来るように。